

# 入院食費引き上げへ

## 厚生労働省議論 患者負担増の懸念

厚生労働省は昨今の

物価高騰を受け、30年近く据え置いてきた入院時の食費基準額の引き上げに向けた議論を各種審議会で始めています。ただ、食費の保険給付分は据え置いたまま、患者負担増で賄う危険性がありま

す。

病院給食の運営業者への委託単価は、1日分で1920円の食費基準額（公定価格）を上回る状況で、食材料費などの高騰で価格差が拡大しています。

厚生労働省は「公定価格のため価格転嫁でき

ず、病院経営に影響、病院食の質が下がりがかねない状況」だとし、9日の社会保障審議会の部会と10日の中央社会保険医療協議会の総会でそれぞれ、入院食費の見直しを提起しました。ただ、1食あたりの患者負担460円（一般所得者の場

合）より介護施設の食費の方が高いとして、見直しは「家計の食費支出や介護保険の食費も参照」するとしまし

た。すでに、患者負担を30円引き上げるという報道も出ています。委員からは、「もはや経営努力のみでは食事療養の提供がきわめて困難な状況だ」（日本医師会）、「食事は大事な治療の一つなのに冷凍食品にどんどん置き換わっている」（日本慢性期医療協会）と窮状が語られるとともに、「患者負担だけでなく保険給付の引き上げを」（連合）と求める意見が出ました。